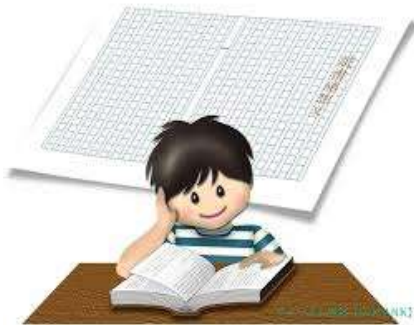


令和五年度

「高志の国文学」情景作品コンクール

入選作品集



令和5年度「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品一覧表

○文芸部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生 綺麗な山の小さな山小屋	散文	魚津市立西部中学校	3	中村 昌樹	黒部の谷の小さな山小屋
	高校生 人生を賭けた夢を	散文	高岡高等学校	2	沖田 明香里	まんが道

○文芸部門(散文・詩部門)

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
金賞	中学生 ふるさと	詩	上市町立上市中学校	2	齊藤 綾香	富山県の電車
	高校生 万葉集から感じたこと	散文	高岡高等学校	2	篠原 志歩	万葉集
銀賞	中学生 イタイタイ病	散文	高岡市立高岡西部中学校	3	釜谷 光	イタイタイ病に関する資料など
	中学生 藤子・F・不二雄に学ぶ生き方	散文	上市町立上市中学校	2	澤村 陽菜	学習まんが人物館 藤子・F・不二雄
	高校生 星の植民地	散文	富山商業高等学校	2	南 陽菜乃	北国(井上靖)
	高校生 俱利伽羅峠・地獄谷	詩	高岡高等学校	2	竹田 織羽	平家物語
銅賞	中学生 神様の子守はじめたんやちや	散文	富山市立北部中学校	1	馬場 春佳	神様の子守はじめました
	中学生 蜃気楼	詩	富山市立速星中学校	2	小川 莉央	押絵と旅する男
	中学生 五箇山に生まれて	詩	南砺市立平中学校	2	細川 芽吹	五箇山～失われる人びとの暮らし～
	高校生 思い出の蛍鳥賊	散文	富山商業高等学校	1	踏江 羽愛	蛍鳥賊(高島 高)
	高校生 北海	散文	富山商業高等学校	2	鶴田 尚牙	北海(高島 高)
高校生 ミロの星座	詩	富山高等学校	1	西野 晃生	ミロの星の下に(瀧口修造)	
佳作	中学生 僕の中ののび太	詩	富山市立呉羽中学校	3	三井 瑛太	ドラえもん
	高校生 私たちの街	散文	高岡高等学校	2	西川 理央	送球ボーイズ

○文芸部門(短歌・俳句部門)

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材
金賞	中学生 若衆宿	短歌	南砺市立平中学校	3	真井 蒼空翔	五箇山～失われる人びとの暮らし～
	高校生 螢川	短歌	高岡高等学校	2	中村 真結	螢川
銀賞	中学生 民謡踊り	短歌	南砺市立平中学校	3	東 美羽	五箇山～失われる人びとの暮らし～
	中学生 花火の滝	俳句	射水市立新湊南部中学校	2	米林 沙恵	花火大会
	高校生 川っぺりムコリッタを見て	短歌	高岡南高等学校	1	藤田 有	川っぺりムコリッタ
銅賞	中学生 日本誇る伝統	短歌	富山市立呉羽中学校	3	山本 栞愛	井波彫刻
	中学生 帰郷	短歌	南砺市立平中学校	3	浦田 かなん	五箇山～失われる人びとの暮らし～
	中学生 北日本新聞納涼花火大会	俳句	魚津市立西部中学校	3	湊谷 優花	富山の情景
	高校生 登頂	短歌	高岡高等学校	2	玉島 果怜	剣岳 点の記
	高校生 米騒動	俳句	魚津高等学校	2	澤田 百加	大コメ騒動
	高校生 雪国	俳句	高岡南高等学校	2	齊藤 万愛	おおかみこどもの雨と雪
佳作	中学生 歴史は繰り返す	短歌	黒部市立清明中学校	2	寺田 健真	大コメ騒動
	高校生 越中おわら風の盆	短歌	高岡南高等学校	2	石田 尚佳	おわら風の盆
	高校生 おわら風の盆	俳句	富山高等学校	1	藤澤 大地	月影ペイペ

※ 文芸部門は、知事賞以外は「散文・詩」「短歌・俳句」の区分ごとに賞を設定

○美術部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	鬼から逃げろ！	富山市立速星中学校	3	高林 美咲	だごだご ころころ
	高校生	晴朗	富山中部高等学校	2	美濃 杏佳	ぐるっと湾岸 父子の旅
金賞	中学生	家族の愛	富山市立山田中学校	3	山崎 由奈	カノン
	高校生	桜のような君	富山中部高等学校	2	蕭 楽晴	君の臍臓をたべたい
銀賞	中学生	うさぎの誤算	富山市立南部中学校	1	石坂 優芽	しっぽのちぎれたうさぎ
		懐かしい故郷	富山市立水橋中学校	1	岡本 桃花	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	夕刻の輪影	富山中部高等学校	2	浅野 智哉	北方の詩
		蛍の思い火	富山中部高等学校	2	藤田 彩乃	螢川
銅賞	中学生	憂鬱な道	入善町立入善西中学校	2	上田 光葵	長い道
		お光と大蛇	富山市立呉羽中学校	3	庄司 明日海	お光伝説
		あったらいいな、こんなこと	富山市立八尾中学校	1	野村 梨紗	ドラえもん
	高校生	響く山車	富山中部高等学校	2	積永 颯	岩瀬曳山車祭
		陽光の中	富山中部高等学校	2	土地 爽太	散り椿
		一週間前	富山中部高等学校	2	野村 遥子	月影ベイベ
佳作	高校生	旅立ち	富山中部高等学校	2	山口 奈月美	RAILWAYS
		「来てたの？」	高岡南高等学校	1	藤田 有	川っぺりムコリッタ

○写真部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	光のゆらぎ	小矢部市立大谷中学校	2	山口 優月	人生の約束
	高校生	光に飲まれて	富山南高等学校	2	四十木 麻友	ドラえもん
金賞	中学生	大自然の花の家	小矢部市立大谷中学校	2	砂田 香也	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	羽ばたく	富山東高等学校	2	杉浦 萌花	大人になる前に身につけてほしいこと
銀賞	中学生	希望だけは捨てない	小矢部市立大谷中学校	2	河原 明彩	サクラクエスト
		ココロのスキマ？	小矢部市立大谷中学校	3	牧田 悠	笑うせえるすまん
	高校生	思い出のワンピース	富山東高等学校	1	浅井 美月	万葉集
		鞆を啣む雁	富山東高等学校	2	横山 将太郎	おおかみこどもの雨と雪
銅賞	中学生	憩いの場	高岡市立牧野中学校	1	リャガス レネ エイドリアン	人生の約束
		自然あふれる小矢部	小矢部市立大谷中学校	3	可部谷 美怜	ふるさとガイド小矢部
		未来への冒険	小矢部市立大谷中学校	3	八十住 侖羅	未来のミライ
	高校生	夕陽の染料	富山東高等学校	1	横田 悠利花	魚津だより
		灯火の影にかがよふ	富山東高等学校	2	清水 ひかり	万葉集
		思い出散歩	富山南高等学校	2	新田 侑生	風の盆恋歌
佳作	中学生	聖地を彩る花火	小矢部市立大谷中学校	1	川原 翔生	君の臍臓をたべたい
		宮島峡	小矢部市立大谷中学校	3	加納 彩音	平家女護島
	高校生	私はあなたの天敵	富山中部高等学校	2	土地 爽太	鳩の撃退法
		流動	富山東高等学校	2	栗山 未遥	万葉集
		別世界への入口	砺波高等学校	1	佐野 瑞歩	新世界より

知事賞（中学生の部）

題材『黒部の谷の小さな山小屋』

綺麗な山の小さな山小屋

魚津市立西部中学校 三年 中村 昌樹

心地よい風を受けながらかっきりと晴れた空を見上げ、人生最後の登山にして我が人生最高の登山であったなど思った。もし私が今人工魚眼レンズでもつけていけば、きつと上半分は鮮やかすぎるくらい青、そして下半分には様々な様相の岩々が時に黒く時に白く、力強くそびえ広がっているのだろう。登ってくる最中にも、鉛のように硬く張り詰めた岩や今にも粉となってさらさら流れていきそうな岩など実に多様なその姿を見てきたが、やはり頂上からの眺めは格別だ。

背後からK4ダムの獰猛な放水の音が聞こえる。それは岩々の表面でこだまして、響きが重なり合い、谷間から頭上の天空まで上ってゆく。時折涼しい風が吹く。

袖をまくって汗が噴き出す腕を見た。ひときわ大きな水滴を太陽に照らしてみる。陰になった私の腕の表面で、透명한光を放つ。汗は私の体に根のようにへばりつき、私を包む。これからじわじわと染みってきて、私の体の中心に達したとき、体の力がすとんと抜け落ちるのだ。腕を伸ばして手の甲を眺める。指の間の町で爆撃の炎が見えた気がした。

体の力がすとんと抜け落ちる。暗闇……。

……閉じたまぶたのすき間から無理やり入ってくる電灯の光が不快で目が覚めた。黴の臭いがする、古い作りの部屋。体を起こしながら、ぼやけた頭で曖昧な記憶を探る。

「あんたもお戦争逃避仲間かい。」

不意に後ろで囁れた老人の声がした。驚き慌てて振り向くと、男が一人、随分昔の煙草を片手にパイプ椅子に座っていた。天井あたりでもややと煙が漂っている。

「……そもそもここはどこなんですか？私は今どういう状況なんですか？というかだいたいあなたは誰なんですか？」

男は一呼吸おいて、口から白くて臭い煙を吐きながら私を見つめて言

った。

「ここはあ、あんたが倒れていたところからあそう遠くねえところにあるチビ山小屋だ。散歩がてらあ周辺歩き回ってたらなあ。ぐーぜんおめえさんがぶっ倒れてたちゅーわけだ。そんでおらがこーやっておめえさんとそのでっけえ荷物を担いで運んでやったのさあ。おい。分かったか。」

「はあ……。」

そうか、私は頂上であたりを見回しながら意識を失ったのか。人生最後の登山で一体何をやっているのだ、私は……。

「おい。俺の質問にも答えねえか。あんたは戦争から逃げてここまで来たのか。」

男がわざと私に向かって煙を吹き付ける。私は男から顔を逸らし、煙たがりながら言った。

「違いますよ。私はただ登山が好きで来ただけです。戦争に駆り出される前に……。」

すると男はなぜか私のことをひどく不思議そうにして見た。煙草を床に置き、目をかっと開いて私の顔を覗き込みながら男は言った。

「あんたこんな不細工で綺麗でも何でもねえ、むしろきたねえような今の山に登るのが好きだっていうのか？昔みてえに植物は生えてねえし動物たちだっていやしねえこの山が、本当に美しいと思うのか？」

男の発言の意味が分からなかった。山というのは岩壁が素朴にそそり立っているのが普通でそれが美しいのではないのか。生き物のいる山なんて、騒々しいだけじゃないのか。

「まあいい、おまえはあ本当の山の美しさを知らねえんだ。よしこの小屋はあおめあにやるからなあもう町に帰るんじやあねえぞ。」

「え、ちよっ、え？それはどういうー？」

「ああ気にするなっつてよう。おまえの分の兵役はおらがやるさあ、おめえさんは山が好きなんだろう？ならここで昔みたいにな本当に綺麗な山をなあ、蘇らせてくれやあ。」

突然勝手なことを言っつて、男は私が次の言葉を発する間もなく部屋から出ていった。すぐに追いかけてしようとしたが、脚が上手く動かない。

もどかしくて叫んだ。知りたかった。

生物の住む綺麗な山を想像できなかつた。

知事賞（高校生の部）

題材『まんが道』

人生を賭けた夢を

高岡高等学校 二年 沖田 明香里

自分の才能や実力に限界を感じたことはあるだろうか。学業でも部活動でも、高いところを目指そうとすればするほど、上には上がいることを思い知らされる。実際に私もその一人だ。

私は小学校高学年から中学までバドミントンをやっていた。競技を始めたころは、毎週の練習が楽しくて仕方がなく、自分は中学でも高校でもその先もバドミントンを続けていくのだろうと漠然と感じていた。そしてたくさんの結果を残していけると思っていた。だがその時の私はまさに大海を知らない井の中の蛙。中学に入って初めての公式戦で一回戦敗退。そのときから自分はバドミントンで結果を残すことは困難なのだと思うようになった。もちろん何においても「結果が全て」というわけではない。努力した過程は今後の人生の糧になる。けれどその時の自分は努力に結果が伴わないことがとても苦しかった。幼いときからバドミントンをやっている人には勝てるわけがない。そんな言い訳をせずに、やれるところまでやりきるんだという気持ちで中学三年生まで続けた。しかし引退試合で惨敗。そして高校へ入学して、今までやってきたバドミントンではなく、一度自分をリセットしようと思ったことのない競技を始めた。

まんが道は藤子不二雄Aが書いた、自伝的漫画作品である。藤子不二雄のコンビの出会いが終戦の前年、一九四四年。お互い小学生だった頃に遡る。漫画が好きであること。お互い境遇が似ている事から意気投合した。二人で漫画家になる夢を持ち、漫画を描き続けていくうちに、あることがきっかけで藤子不二雄Aである安孫子素雄は、藤子・F・不二雄の藤本弘との漫画家としての才能の差を思い知らされる。しかし彼はここで諦めず、自分の実力はこんなものではないと信じた。そうやって彼らは漫画界に名をはせた。

『夢を持ち、それを実現させること』は、もちろん素敵なのですが、そもそも、『人生を賭けた夢を持てた』ことが素晴らしい。」

本の最後に掲載されている作家・演出家の鴻上尚史の言葉だ。私はこの言葉にハッとすると同時に、結果を出すことばかり考えて、高いところを目指しひたすら努力続けることを簡単に諦めてしまった過去の自分が何ともみじめに思えてきた。

自分は今まで、成功すること、結果を残すことに執着しすぎていた。だが、まんが道を読んで考え方が随分と変わった。スポーツや芸術の分野で結果を残しているように見える人にはきっと、明確なゴールはない。結果を出すことは大事だが、結果はあくまでも自分の努力の副産物であり、自分がさらにどこまで上に行けるのかを楽しんでいるようにさえ見える。

私は「人生を賭けた夢を持つこと」を一生涯の大きな目標にしようと思う。テストでいい点を取るとか、〇〇大学に行くとか、そんな一時の目標ではない。人生全てを賭けて実現できるかわからない。けれど挑戦せずにはいられないような目標。結果を出すことにとらわれず上を目指し続けられるような目標をもつことだ。おそらくそう簡単に見つけられるようなものではない。すべてをかけて挑戦したいと思えるものに出会えるのは、もしかしたら明日かもしれないし、十年後二十年後、もっと先になるかもしれない。けれどももしそう思えるものに出会ったのなら、ここに書いた自分の後悔と目標を思い出して、全力を尽くしたい。

さあ、後悔だらけの自分よ。今日の自分を超えて、明日はなにになる。

【散文・詩部門】

金賞（中学生の部）

題材『富山県の電車』

ふるさと

上市町立上市中学校 二年 齊藤 綾香

懐かしさを連れて
ぬくもりを連れて
ガタンゴトンガタンゴトン
かぼちゃ電車が走ってる

きれいな水 広い田んぼ
辺り見渡せば優しい笑顔

現在急上昇発展中
夢へ未来へ快走中

ガタンゴトンガタンゴトン
みんなを乗せて走ってる
幸せ連れて、どこまでも

金賞（高校生の部）

題材『万葉集』

万葉集から感じたこと

高岡高等学校 二年 篠原 志歩

今年の五月祖父母に連れられて初めて万葉歴史館に行った。私は小学生の時万葉かるたを行ったり、給食のお椀にかたかごの花が描かれていたり万葉集とは身近であったと思うが、特別万葉集に興味があったわけでもなかった。しかし実際に行ってみるととても興味深いものばかりだった。万葉集の基礎知識はもちろん万葉集の写本の複製や実際に万葉集に出てくる植物も見ることができた。これまで実際に昔の字体などを見る機会がなかったので見たときは実際に奈良時代の人々と同じ空間を享受しているような気分がした。そこで私はさらに万葉集について調べてみることにした。

「万葉集と富山」という本を読むと面白いことがいくつか書いてあった。その中には立山についての記述もあった。そこでは大伴家持が詠った歌と出挙の伴池主が詠った歌について比較していた。著書によるとこの二人はともに立山について詠っているがその表現には違いが見られ、池主のほうがより具体的に立山について詠っているのとだ。この差は立山の見え方から来ており、当時の国府からは立山を見ることができ立山のそばに行かずとも立山の歌を詠めたため、立山を間近に見たことのある池主と異なる表現をしているようだ。

私はこのことを知り、立山が不思議に思えた。私たちは何か見たい景色があるとその場所に赴かなければならない。桜が見たいと思ったら桜が咲いているところに行きに行かなければならない。きれいな紅葉並木を楽しみたいと思ったらその場所に行かなければならない。人によってはおもしろい場所に行き、そこでしか見られない景色を楽しむことが醍醐味という人もいるかもしれない。しかし立山にはこの場所

でしか見られないという制限がない。だから家持はわざわざ立山の近くに行かずとも歌が詠めたのだと思う。現代人の感覚は家持のほうに近いのではないだろうか。私自身立山に上ったのは数える程度である。それでも遠くから見る立山を楽しんでいる。私はこのことを考えると自分も家持と同じ考え方をしていたのかと思ひ嬉しくなった。そして時代を超えても変わらない人の感性に感動した。

そして私はこの本からもう一つ面白いことを学んだ。それは見る年齢による見え方の変化だ。私は小学生の時は万葉集を覚えることに重点を置いていたため、かるたに描かれている絵から意味を推測していたが、高校生になった今、じっくりと意味を読んでいるとこんな意味だったのかと思うような発見がたくさんあった。歌だけを見て情景を想像するのもよいし、また、実際に意味を知って想像するのもよい。インターネットが発達している今日にあえて調べず文字から想像し、実際に自分の目で確かめるのもまた楽しいかもしれない。

豊かな自然がある富山。そして万葉集が発展した高岡。私はこうした環境に生まれ育ったことをありがたく思った。このような環境でなければ、自然の恵みを受けることはなかっただろうし、万葉集というものについて知る機会がなかっただろう。今私が見ている自然を千年以上も前の人も見ていたのだろうか。そして自然に癒され、見守られて生活していたのであろうか。そんなことを考えると立山がより一層頼もしく見えた。

銀賞（中学生の部）

題材『イタイイタイ病に関する資料など』

イタイイタイ病

高岡市立高岡西部中学校 三年 釜谷 光

「イタイイタイ。」約百年程前、婦中町に住む多くの女性がこう叫んでいた。彼女らはその名の通り「イタイイタイ病」を患っていたのだ。イタイイタイ病は日本の四大公害として知られており、腰や肩が激しく痛む。その痛みは針千本、二千本で刺されるような痛みであるという。想像するだけでも痛い。この病の原因は婦中町付近を流れる神通川に神岡鉱山の鉱毒が流れていることであった。当時、川と人々の生活は深く結びついており、炊事や洗濯などに使用されたため、人間も影響を受けたのだ。病の原因が分かったことで住民たちは被害者の救済、補償に向かって立ち上がった。裁判を起こしたのだ。結果は住民側の全面勝訴となった。

これらを見れば、話はうまく進んでいるように見えるが、最初の患者が発生してから、裁判の勝訴に至るまで、六十年の時を要している。当時は経済発展しか眼中になく、環境なんぞそっちのけであったため、無理もないことであろう。

イタイイタイ病の具体的な症状は大きく分けて二つあり、一つは骨障害である。骨の密度が小さくなり、軟化してしまうのだ。そのため、患者は咳をするだけでも骨折してしまう。もう一つは、腎臓の障害である。腎臓は体に必要でなくなった老廃物を尿にする器官である。できた尿を排泄する過程で障害がおこり、骨をつくる成分までもが排泄される。また、他の公害との大きな違いは意識障害が無いことである。そのため、正常な精神でそれらの痛みを感じてしまうのだ。本当に恐ろしい病気である。

そして現在に至るまで、様々な対策が行われてきた。例としては水道の整備、立ち入り調査である。これらの取り組みが徹底されているからこそ、安心して生活できている。

高度経済成長期から日本は急速な発展を遂げた。日本の至るところ

に、工場が建設された。日本が栄えた。しかし、その一方で、このように公害が発生した。過疎化が進んだ。今でこそ、環境という言葉がブームになっているが、当時の日本は敗戦後。早期復興がキーワードだった。これらの背景を踏まえ、私たち現代人は考えなければいけない。目の前に夢中になって、押しつけて苦しんでいるものはないかと。そういう存在にいちはやく気付き、対策しなければならぬ。そんなときにふと孔子の言葉が思い浮かぶ。

「学びて思はざれば則ち罔し、

思ひて学ばざれば則ち殆し、と」

公害について知ることだけで満足してはいけないのだ。環境に対して危機感を覚えているだけではないのだ。これら二つを合わせて実際に行動しないと、何も生産されないということである。生産と保全の両立が今でも世界的に課題とされている。私たちに今できることは、過去のことを知った上で、今を捉えるということなのだ。「イタイタイ病」についてよく知れば、この問題の難しさよく分かる。一見、保全を優先させたくなるが、生産が十分でない、私たちは生活していけない。「イタイイタイ」と苦しんでた人たちのために、この大きな壁に立ち向かわなければいけない。

銀賞（中学生の部）

題材『学習まんが人物館 藤子・F・不二雄』

藤子・F・不二雄に学ぶ生き方

上市町立上市中学校 二年 澤村 陽菜

「子どものころ、僕は『のび太』でした。」

これは、あのドラえもんの作者である、天才漫画家藤子・F・不二雄が残した言葉である。

この前、おばあちゃんの家遊びに行った時のことだ。何気なく本棚を見てみると、ドラえもんの漫画があった。テレビアニメや映画で見たことはあるが、漫画を読むのは初めてだったので、気になって読んでみることにした。いつものように、のび太がドラえもんにせがんで秘密道具を借りようとする。四次元ポケットから出てくる秘密道具は、いつも夢のようなおもしろいものばかり。二十二世紀になったらドラえもんがいるような世界になるのかな、と思いにふけることもある。それと同時に、こんなに夢のある世界を考え出す作者について、知りたくなった。興味をもった私は、すぐに近くの図書館で藤子・F・不二雄の生い立ちが分かる学習漫画を借りてみることにした。

この漫画を読んで感じたことは、藤子・F・不二雄はとにかく絵を描くことが大好きで、漫画に対する情熱が人一倍強いということだ。例えば、私と同じくらいの中学生のときに、安孫子（のちの藤子不二雄A）と一緒に読んだ手塚治虫の漫画、新寶島に大きく心を打たれ、手塚治虫の家を訪問したこと、当時治らない病気として恐れられていた結核にかかったときも、「まだスタート地点に立ったばかりだ、こんなところで帰るわけにはいかない。」と、気合だけで治したこと、亡くなる直前までドラえもんを描き続けていたこと、などのエピソードがあった。実際に会って話を聞いたわけでもないのに、エピソードを聞いただけでも、漫画に対する強い情熱を感じた。

そして、数々の奇跡の出会いもまた、藤子・F・不二雄をつくりあげたのだと感じた。まず、母の存在である。漫画嫌いの父のせいで漫画家になる夢をなかなか言い出せなかったが、母は好きなことをすれ

ばいいじゃないか、と漫画家の夢を応援した。それだけでなく、夢を叶えるために東京に行きたいという願いも快く叶えてくれた。藤子・F・不二雄にとって、母の存在はとても大きかったのではないだろうか。さらに、小学校の頃からずっと二人で漫画に向き合ってきた安孫子。五十四歳のときまで人生でほとんどを共に過ごしてきた彼の出会いも、奇跡といえるだろう。他にも、手塚治虫やトキワ荘の仲間たちなど、たくさんさんの素敵な出会いが藤子・F・不二雄を支え、つくっていったのだと思う。

こんなに漫画に人生をかけてきた藤子・F・不二雄の生き方に私はとても感心した。そして、さらに興味をもった私は高岡の藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーに行ってみることにした。たくさんさんの原稿やメモ、実際に使用していたペンなどが展示されていた。その中にこんな言葉があった。「わたしが漫画を描くに当たっての姿勢は、『良質な娯楽を提供したい』ということ。単純明快。ほかは何もない。」なんて純粋な思いで漫画に向き合ってきたのだろう、と思った。読者に楽しんでもらいたい、この純粋な強い気持ちの数々の名作を生み出してきたのだろう。また、「ぼくには漫画しかない」という言葉も書いてあった。漫画が大好きで、漫画に人生をかけよう、という強い思いが感じられた。

私は、藤子・F・不二雄の生い立ちや考え方を知り、本当に漫画を愛し、そして強い気持ちと情熱をもって漫画に向き合ってきたことが分かった。私はこれから将来について考える機会も多くなると思う。そんなとき、藤子・F・不二雄のように、自分の好きなこと、やりたいたことは何かを考え、物事に情熱と強い気持ちを持って生きたいと思った。

銀賞（高校生の部）

題材『北国（井上 靖）』

星の植民地

富山商業高等学校 二年 南 陽菜乃

戦争の後の喪失感あふれる町に、わずかな復興の希望を感じるような、前向きで美しい詩だと思いました。

大切な人、大切な場所をなくし、顔をあげられない人も多くいるだろうけれど、ずっとそうしてはいられませんが。ふりきれない悲しさを抱えながらも何とか生活を町を取り戻そうと一歩ずつ前進していつかのように感じました。朝や昼、明るい時間は立ち上がり活動しているも、夜が訪れ店じまいされると暗くなり、人々に戻ってくる悲哀感。

それを星が静かに励ましてくれていたのではないかと想像しました。最後の「星の植民地」という表現も素敵だと思います。植民地という支配されるといふマイナスなイメージがあります。しかしそれがこの町の人々にとっては救いだったのかもしれないと思いました。何も考えずただ星の光に支配されるような時間が必要だったのだと思います。

作者が感じた古くも新しくもない町の不思議さは、古くから使われている漢字と外国から輸入したカタカナの外来語をまぜることで表現されているように感じました。文字面からもその雰囲気伝わってきます。

自分の故郷にこのような時代があり、それを経て、今私が生活できていることを改めて知りました。今までこの故郷を築いてきた先人に感謝し、引き継いでいきたいです。

銀賞（高校生の部）

題材『平家物語』

俱利伽羅峠・地獄谷

高岡高等学校 二年 竹田 織羽

走れ、走れ、走れ
さもなくば、白雲に飲まれる
走れ、走れ、走れ
行く先は、闇しかあらず
走れ、走れ、走れ
父上も兄上も目の前に
闇だ、闇だ、闇だ
赤旗が消えてゆく
走れ、走れ、走れ
行く先は、闇しかあらず
走れ、走れ、走れ、走れ、走れ、走れ、走れ

飛ぶ

ああ、赤が流れていく

銅賞（中学生の部）

題材『神様の子守はじめました』

神様の子守はじめたんやちや

富山市立北部中学校 一年 馬場 春佳

「小さな部屋で鳥と龍と虎と亀が走り回っている。」
これは、『神様の子守はじめました』という本の一文です。このよ
うなことが自分の家でおきていたら、にぎやかで楽しそうだけど大変
なことだなと思いました。この本を知ったのは、本屋で表紙の絵の可
愛さにひかれたのがきっかけでした。作者は富山県出身の霜月りつさ
んと知り、うれしくなりました。

普通の人間の羽鳥梓が、太陽を司る神アマテラスオオミカミに見込
まれて四神の子守を卵のときから任せられるという話です。二十四時間
勤務、年中無休、少し精気が減ってしまう、だけど給料二十四万円、
ボーナス付き、一生安泰の仕事です。朱雀の朱陽、青龍の蒼矢、白虎
の白花、玄武の玄輝とともに毎日騒がしい生活が始まります。

下界のことをよく知っている田の神のクエビコさんという神様が
います。この本の中のクエビコさんは、「くやちや」、「くながや」など
かなりなまった富山弁を話します。私は生まれも育ちも富山なので、
親近感がわいて楽しく読むことができます。

四神の子守もたちが魔縁天狗という悪い天狗にさらわれました。そ
の事件は梓がまだ四神の子守を引き受けるかどうか悩んでいたときで
したが、子どもたちを自分から助けに行きました。そして、子どもた
ちを取り返すことはできたけれど、魔縁天狗が梓に襲いかかってしま
した。その時、今度は子どもたちが結界を張って梓を助けられました
た。それは、子どもたちがまだ卵の中にいるときに、梓が優しく接し
てくれていたことを知っていたからではないでしょうか。どちらも助

け合って、すでに相手のことを大切にしているのだなと思えました。しかし、この事件がおこる前、まだ子どもたちが卵の中にいるときは、自分には荷が重いと子守を断ったことがありました。けれど、事件を通して子どもたちが助けてくれたことで、梓は、

「俺は頼りないけど、子どもたちは絶対に守ります！」

と言いました。神様たちや四神の子どもたちが自分を認めてくれたことに気づき、やらせてくださいと言えるところに感動しました。その後、梓は失敗することもあるけれど、みんなの協力もありながら楽しく子守の仕事をしています。

以前私は、先生からやってみないかと言われたことを引き受けましたが、難しくて上手くできるか不安でした。それでも、諦めずに周りの人のサポートやアドバイスをもらいながら最後までやり抜きました。無理だと決めつけずに、やってみることが大事だと思います。また機会があったら自ら挑戦してみたいです。

この本は今も続いていて、私は半分ぐらいまで読み終わりました。鬼が現れたり、いきなり神様が出てきたりと、奇想天外な展開が多いので、この先の話がどのようなか気になるので、これから読むのが楽しみです。

本の中にはタカマガハラという神の気に満ち、たくさんの神様がいるところがあります。富山にも高天原という場所があることを知りました。高天原は草や木、お花畑、岩などがある自然豊かなところであり、高天原温泉や湿原として有名です。簡単にはたどり着けない山奥にあるけれど、いつか行ってみたいと思っています。そして、高天原のお花畑にクエビコさんがもしいたら、

「まいどはやー」

とあいさつをしたいです。

銅賞（中学生の部）

題材『押絵と旅する男』

蜃気楼

富山市立速星中学校 二年 小川 莉央

水平線の少し上
空気に色がついていく

うすく見える

黒い影

「紫の臙脂の勝った色彩で、
まるで蛇の眼の瞳孔の様」

かつて誰かが言った

その言葉

初めて自分が目にした時

私とその言葉を知っていたなら

自然の生み出す景色へ

その言葉をかけただろう

奇跡のような蜃気楼

この目で見られた奇跡の景色

銅賞（中学生の部）

題材『五箇山く失われる人びとの暮らし』

五箇山に生まれて

南砺市立平中学校 二年 細川 芽吹

五箇山に生まれた
合掌造りは世界遺産だ

有名なのか？

有名ならしい

私、すごいところに生まれたんだ

よかったことは……。

登下校するとき

景色が凄い

晴れた日の山、きれいだよ

吹き上げる風と登校だ

有名な民謡ができる

学校の授業に民謡がある

めっちゃ楽しい

褒めてもらえると、ときめいて

うまく踊れると、嬉しくて

去年まで

「民謡、嫌い」とか言っていたけど

楽しさわかった

こきりこ、麦や、といちんさ

みんな見においで

五箇山って、いいよ

銅賞（高校生の部）

題材『螢烏賊（高島 高）』

思い出の螢烏賊

富山商業高等学校 一年 踏江 羽愛

私は高島高さんの「螢烏賊」という詩に心をひかれました。

「太古の春の夜の海に人間はなく」という始まりからこの詩の世界

に一気に引き込まれていきました。真夜中の真っ暗な海の中にきらき

らと螢烏賊が泳いでいる様子が頭の中に広がりました。

そして、この螢烏賊が一面に輝いている様子から、少年の頃の思い

出を同じ場所でなつかしんでいる高島高さん自身を詩にしているのだ

と思いました。この詩に出てくる「わが少年の日の見果ぬ夢」とは、

高島高さんが少年だった頃の最後まで見られない夢、永久に実現でき

ない計画を表しているのだと思います。

螢烏賊が少年の頃の果てない夢を「むさぼり喰っていた」というよ

うな擬人法が使われています。そのため、螢烏賊の群集の様子を鮮明

に感じ取ることができました。高島高さんにとってはそんな様子が思

い出であり、心にしみる光景なのだと思います。

この詩は、富山の美しい風景がふと思いつき起こされ、どこかしんみり

した雰囲気がありました。いつか自分も昔の頃のことを思い出し故郷

を恋しく思う日が来るのだろうかと思いました。

銅賞（高校生の部）

題材『北海（高島 高）』

北海

富山商業高等学校 二年 鶴田 尚冨

私はこの詩を読んで、人との支え合いをうたった詩なのかと思った。私は野球をしているので野球の話で例えてみる。まず、詩の中にある雲というのはフィールド内でプレーをしている選手だと考える。そして太陽というのはそれをサポートしてくれるメンバーだったりベンチに入れなかったけどチームが勝つために仕事をしてくれたりするメンバーだと考える。つまり、この詩は雲ばかり、すなわちフィールドでプレーしている選手ばかり見えるが、太陽すなわち支えてくれる裏方が雲の裏で光り輝いているということを言っているのだと思う。私は今ありがたいことに背番号をもらいフィールドでプレーできる雲である。そんな雲である私達メンバーは雲を裏から照らしてくれる太陽達の期待や声援に応えなければならぬ。いつも練習を手伝ってくれたり準備をしてくれたりするサポートメンバーの気持ちや背負って戦わなければならない。今週末には夏の大会がはじまる。雲である私達は太陽とともに一戦一戦戦い抜きたい。雲と太陽は切っても切り離せない何かで結ばれており、一つなんだと思う。この詩には雲の裏で見えず光り続けている太陽のようなサポートメンバーにもっと焦点をあててほしい、そんな筆者の願いがこめられていると思う。

銅賞（高校生の部）

題材『ミロの星の下に（瀧口修造）』

ミロの星座

富山高等学校 一年 西野 晃生

かの友達言いました
まるくなつてはいけないと

雨晴のさざ波云いました
やわらかな心神が大切に

慰めの花火云いました

只今は川のようにながれると

詩人の秀作は言いました
数多のみちがあるのだと

これより先を描いた地図はない
正しさをおしつけるコンパスもない
コンクリートの獣道もない

けれど私はもう迷わない
人々も嵐も霧も山も海をも越えてゆく
星へ向かって越えて行く

佳作（中学生の部）

題材『ドラえもん』

僕の中ののび太

富山市立呉羽中学校 三年 三井 瑛太

僕の中のダメなのび太

なにもしたくない・面倒臭い

この文を書くのも挫折しかけた

何度もあきらめなくなった

それでもなんで頑張れたのだろう

僕の中にドラえもんがいたから

辛い時・やりたくない時

いつもはげましてくれる

いつも呼びかけてくれる

応援という秘密道具で

僕の中のダメなのび太

ドラえもんがもしいなくなっても

頑張るためには

僕が頑張るって

のび太を強くしてあげなくちゃ

佳作（高校生の部）

題材『送球ボーイズ』

私たちの街

高岡高等学校 二年 西川 理央

自他共に「田舎」と称される富山県氷見市は私の出身地であり、漫画「送球ボーイズ」の舞台でもある。なぜ氷見市がマンガの舞台に選ばれたのか。それは氷見市が送球、つまりハンドボールで有名だからだ。

氷見市ではハンドボールが盛んだ。市内の小中学校には必ずハンドボールのゴールがあり、ハンドボール部は運動部では野球部に次いで厳しいと言われている。そして、氷見市ふれあいスポーツセンターでは春の全国中学生ハンドボール選手権大会が毎年開かれている。私が通っていた中学校には校庭にハンドボールコートがあった。「送球ボーイズ」はそのような環境の中でハンドボールには不利な低い身長李志熊栄都が「見ただけで相手の動きを真似できる」という特技を生かしてハンドボールの世界で活躍していく話だ。

この漫画では、志熊がハンドボールを通して強くなるための努力の方法や試合に勝ったときの喜びや負けたときの悔しさや仲間やライバル達と能力を高め合うことの大切さを学んでいくうちに成長している。この展開は他のスポーツ漫画にも当てはまることが多いと思うが、「送球ボーイズ」は他の漫画とは日常の描き方が大きく異なる。普通のスポーツ漫画ではショッピングなどが日常だが、「送球ボーイズ」では釣りなどの自然豊かなところでできるものを日常として描いている。これは私達の日常に近いものとして捉えられるので、登場人物により親近感が湧き、内容も面白く思えてくる。

私は正直ハンドボールが苦手だった。なぜなら私は運動が苦手な上に身長が低く、体育のハンドボールの授業では工夫しても点が取れず、そのことに嫌気がさしていたからだ。それにより見ることも嫌いになりかけていた頃に父が「送球ボーイズ」を買ってきた。実はこの漫画は氷見が舞台だということで私の学校では生徒に試し読み版が配られ

ていた。その頃から興味を持っていたので読む気になった。そして読み進めるうちに、点を入れられないだけでハンドボールを嫌いになりそうな自分と、点を入れられなくても工夫して点が取れるように努力し、むしろさらにハンドボールが好きになっていく登場人物たちとの違いが浮き彫りになっていった。志熊にも私と同じ身長というハンデがある。それでも強くなり、点を取る様子を見ると、私のハンドボールへ苦手意識は少し薄まり、点を入れられなくても嫌いになることはなくなっただけだ。

この漫画はハンドボールのスポーツ漫画だが、ハンドボールだけでなくスポーツ全般に共通する物の大切さも同時に伝えようとしていると感じられる。私が漫画の登場人物達の努力や熱意を好ましく思っている人に「他人に好ましく思ってもらえる行動をして強くなることでそのスポーツ自体を好きになってもらえる」という例を分かりやすく提示することでスポーツマンシップの大切さを伝えているのだと思った。

このように「送球ポイズ」を読んだときの記憶を思い返すうちに、「もしこの漫画が小説だとしたらどうなっていたのだろう」と考えるようになった。実際そうだとしたら、心情は正確に分かるかもしれないが、登場人物の姿や自然豊かな町並みの様子は想像するしかなく、内容を自分の身近なものとして捉えることができなかつたのではないかと思った。やはりこの話は登場人物の顔が見える分感情移入しやすくなる漫画が一番だと感じた。

私はこの漫画を読んだことでハンドボールと氷見市への肯定感が上がったと感じられる。そこで、今までしていなかったハンドボールの試合の観戦や、自然豊かな場所での散歩を試してみたいと感じた。身近な場所が舞台の漫画は老若男女問わず読みやすいと思うので、そのような漫画があれば積極的に読むのがいいと思った。

【短歌・俳句部門】

金賞（中学生の部）

題材『五箇山く失われる人々の暮らし』

若衆宿

南砺市立平中学校 三年 真井 蒼空翔

濁酒の

香り漂う獅子宿に

どぶろく
わかれんじゆう

若連中の

歓声が沸く

金賞（高校生の部）

題材『螢川』

螢川

高岡高等学校 二年 中村 真結

いたち川

揺らめく金の

螢火に

めぐる命の

輝きを見る

銀賞（中学生の部）

題材『五箇山く失われる人びとの暮らし』

民謡踊り

南砺市立平中学校 三年 東 美羽

といちんさ

乙女の頬も赤らんで

伸ばす手指と

跳ねる爪先

銀賞（中学生の部）

題材『花火大会』

花火の滝

射水市立新湊南部中学校 二年 米林 沙恵

大橋に

歓声おこす

光る滝

銀賞（高校生の部）

題材『川っぺりムコリッタ』

川っぺりムコリッタを見て

高岡南高等学校 一年 藤田 有

魂が

ブカブカブカと

空昇る

受話器にぎって

交信を待つ

銅賞（中学生の部）

題材『五箇山く失われる人びとの暮らしく』

帰郷

南砺市立平中学校 三年 浦田 かなん

しのたけ

篠竹の

音軽やかに

笠と舞う

こきりこの唄

山里の春

銅賞（中学生の部）

題材『井波彫刻』

日本誇る伝統

富山市立呉羽中学校 三年 山本 埜愛

石畳

古い町並み

歩いたら

ね

匠の技の音

心に響く

銅賞（中学生の部）

題材『富山の情景』

北日本新聞納涼花火大会

魚津市立西部中学校 三年 湊谷 優花

かわづら

川面に

平和を願う

花火咲く

銅賞（高校生の部）

題材『劔岳 点の記』

登頂

高岡高等学校 二年 玉島 果怜

見渡せば
雲海の中で
我ひとり
彼等も見たのか
このパノラマを

銅賞（高校生の部）

題材『大コメ騒動』

米騒動

魚津高等学校 二年 澤田 百加

背に立山

立つ夏の浜

やらんまいけ

銅賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

雪国

高岡南高等学校 二年 齊藤 万愛

子狼たち
雪原駆けて
自由舞う

佳作（中学生の部）

題材『大コメ騒動』

歴史は繰り返す

黒部市立清明中学校 二年 寺田 健真

チラシ見て

玉子の値上げに嘆く母

今に起こるか

だいらんそうどう

大卵騒動

佳作（高校生の部）

題材『おわら風の盆』

越中おわら風の盆

高岡南高等学校 二年 石田 尚佳

灯がともり

胡弓の調べに集いしや

二百十日よ

神荒ぶるな

佳作（高校生の部）

題材『月影ペイペ』

おわら風の盆

富山高等学校 一年 藤澤 大地

秋風や

哀愁漂う

風の盆



知事賞(中学生の部)

「鬼から逃げろ！」〈題材「だごだご ころころ」〉

富山市立速星中学校3年 高林 美咲



知事賞(高校生の部)

「晴朗」〈題材「ぐるっと湾岸 父子の旅」〉

富山中部高等学校2年 美濃 杏佳



金賞(中学生の部)

「家族の愛」〈題材「カン」〉

富山市立山田中学校3年 山崎 由奈



金賞(高校生の部)

「桜のような君」〈題材「君の臍臓をたべたい」〉

富山中部高等学校2年 蕭 楽晴



銀賞(中学生の部)

「うさぎの誤算」〈題材「しっぽのちぎれたうさぎ」〉

富山市立南部中学校1年 石坂 優芽



銀賞(中学生の部)

「懐かしい故郷」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山市立水橋中学校1年 岡本 桃花



銀賞(高校生の部)

「夕刻の輪影」〈題材「北方の詩」〉

富山中部高等学校2年 浅野 智哉



銀賞(高校生の部)

「螢の思い火」〈題材「螢川」〉

富山中高等学校2年 藤田 彩乃



銅賞(中学生の部)

「憂鬱な道」〈題材「長い道」〉

入善町立入善西中学校2年 上田 光葵



銅賞(中学生の部)

「お光と大蛇」〈題材「お光伝説」〉

富山市立呉羽中学校3年 庄司 明日海



銅賞(中学生の部)

「あったらいいな、こんなこと」〈題材「ドラえもん」〉

富山市立八尾中学校1年 野村 梨紗



銅賞(高校生の部)

「響く山車」〈題材「岩瀬曳山車祭」〉

富山中部高等学校2年 釈永 颯



銅賞(高校生の部)

「陽光の中」〈題材「散り椿」〉

富山中部高等学校2年 土地 爽太



銅賞(高校生の部)

「一週間前」〈題材「月影ベイベ」〉

富山中部高等学校2年 野村 遥子



佳作(高校生の部)

「旅立ち」〈題材「RAILWAYS」〉

富山中部高等学校2年 山口 奈月美



佳作(高校生の部)

「来てたの？」〈題材「川っぺりムコリッタ」〉

高岡南高等学校1年 藤田 有

【写真部門】



知事賞(中学生の部)

「光のゆらぎ」〈題材「人生の約束」〉

小矢部市立大谷中学校2年 山口 優月



知事賞(高校生の部)

「光に飲まれて」〈題材「ドラえもん」〉

富山南高等学校2年 四十木 麻友



金賞(中学生の部)

「大自然の花の家」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

小矢部市立大谷中学校2年 砂田 香也



金賞(高校生の部)

「羽ばたく」〈題材「大人になる前に身につけてほしいこと」〉

富山東高等学校2年 杉浦 萌花



銀賞(中学生の部)

「希望だけは捨てない」〈題材「サクラクエスト」〉

小矢部市立大谷中学校2年 河原 明彩



銀賞(中学生の部)

「ココロのスキマ？」〈題材「笑うせえるすまん」〉

小矢部市立大谷中学校3年 牧田 悠



銀賞(高校生の部)

「思い出のワンピース」〈題材「万葉集」〉

富山東高等学校1年 浅井 美月



銀賞(高校生の部)

「葦を啣む雁」〈題材「おおかみこどもの雨と雪」〉

富山東高等学校2年 横山 将太郎



銅賞(中学生の部)

「憩いの場」〈題材「人生の約束」〉

高岡市立牧野中学校1年 リャガス レネ エイドリアン



銅賞(中学生の部)

「自然あふれる小矢部」〈題材「ふるさとガイド小矢部」〉

小矢部市立大谷中学校3年 可部谷 美怜



銅賞(中学生の部)

「未来への冒険」〈題材「未来のミライ」〉

小矢部市立大谷中学校3年 八十住 徠羅



銅賞(高校生の部)

「夕陽の染料」〈題材「魚津だより」〉

富山東高等学校1年 横田 悠利花



銅賞(高校生の部)

「灯火の影にかがよふ」〈題材「万葉集」〉

富山東高等学校2年 清水 ひかり



銅賞(高校生の部)

「思い出散歩」〈題材「風の盆恋歌」〉

富山南高等学校2年 新田 侑生



佳作(中学生の部)

「聖地を彩る花火」〈題材「君の臍臓をたべたい」〉

小矢部市立大谷中学校1年 川原 翔生



佳作(中学生の部)

「宮島峡」〈題材「平家女護島」〉

小矢部市立大谷中学校3年 加納 彩音



佳作(高校生の部)

「私はあなたの天敵」〈題材「鳩の撃退法」〉

富山中部高等学校2年 土地 爽太



佳作(高校生の部)

「流動」〈題材「万葉集」〉

富山東高等学校2年 栗山 未遥



佳作(高校生の部)

「別世界への入口」〈題材「新世界より」〉

砺波高等学校1年 佐野 瑞歩